

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
国語	現代文B	現代文B	3
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3年次	通年	共通
履修条件 2年次からの継続履修である。			
講座内容 1. 随想…文章の構成に注意し、内容を的確にとらえる。文章の読解を通して自然や文明の在り方について考えを深める。 2. 小説…細かい叙述を確認しながら、人物・情景・心情を的確にとらえる。登場人物の姿を通して、人間の心理について考えを深める。 3. 評論…文章の流れに注意し、論理の展開・要旨を的確にとらえる。文章の読解を通して、科学技術・言語・異文化理解等について考えを深める。			前期 16 時間 前期 20 時間 後期 29 時間 前期 22 時間 後期 30 時間
履修上の注意			

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
国語	古典B	古典B	1
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3年次	通年	選択
履修条件 2年次からの継続履修である。			
講座内容 古文分野と漢文分野をある程度まとまった形で交互にすすめていく。 ○ 古文 比較的親しみやすい作品を中心に鑑賞する力を養う。 ○ 漢文 読解を通じてものの見方、考え方を深め、今日的な意義と結びつけて鑑賞する。			前期 20 時間 後期 19 時間
履修上の注意			

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
国語	文学研究	文学研究	1
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3年次	通年	選択
履修条件			
講座内容			39 時間 1つの作品について5時間以上をあて、年間 5~7 作品について、1. 2. 3. の内容を学習する。
1. 近代までの文学史を学ぶ。 2. 和歌、随筆、歌物語などの古典作品や近代文学作品を読み味わい、自分なりに読解し、レポートを作成する。 3. 2を発表して、相互に評価しあう。			
履修上の注意			

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
国語	国語表現	国語表現	1
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3年次	通年	選択
履修条件			
2年次からの継続履修である。			
講座内容			39 時間
国語で適切に、また効果的に表現する能力を高めるとともに、思考力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって生活を充実させる態度を育てる。 自己紹介文・聞き書き文の作成やディベートなどの表現活動を行う。			
履修上の注意			
・国公立大学・四年制大学等の受験を希望するものについては受講が望ましい。			

(国語) 科 (科目)	普通 ・ 家政 科	(3) 年次
科目名 (時間割上)		(備考 配当時間・履修形態など)
A	現代文B	3単位
B	古典B	1単位 (選択) 2年次に「古典B」を履修したものが履修。
C	文学研究	1単位 (選択) 学校設定科目
D	国語表現	1単位 (選択) 2年次に「国語表現」を履修したものが履修。
教材	教科書 A:「精選現代文B」(東京書籍)、B:「新編古典B」(東京書籍)、 D:「国語表現」(教育出版) 古典文法書:「新修 古典文法 二訂版」(京都書房) 国語便覧:「新版三訂 カラー版 新国語便覧」(第一学習社) 問題集(週末課題用)、漢字問題集:「品詞別 頻出漢字マスター3000」(尚文出版) 国語辞典、古語辞典、漢和辞典	
指導到達目標と指導の工夫	「現代文B」評論文、小説、韻文の発展的な読解力を育成する。 「古典B」古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。 「文学研究」近代までの文学作品に触れ、調べ学習を行うなど自ら学ぶ態度を育てる。 「国語表現」表現についての様々な演習を通して受験小論文にも対応する力を身につける。 基礎の定着のうえに実践的な力をつけさせる。	
課題	週末課題 休業中の課題	
評価方法	定期考査、課題考査、小テスト、レポート 課題の提出、授業への取り組みなどを総合的に評価する。	

年間計画 (科目ごとに年間の計画を記入)

科目	A 現代文B	B 古典B	C 文学研究	D 国語表現
4	評論 小説	物語 和歌	文学史 古典文学	(問題演習) 漢字の読み書き
5	評論 小説	随筆 日記	近代文学 作家・作品の研究、発	語句
6	評論 小説	詩 思想 物語	表	(文章表現) ・ レポート ・ スピーチ ・ 意見文 等
7				
8				
9				
10				
11				
12				
1				
2				
3				
備考				

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
地理歴史	地理 A	地理 A	2
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3 年次	通年	選択・必履修
履修条件			
講座内容			
1 現代世界の特色と地理的技能 現代世界の動向や地域性、地理的技能を身に付ける。球面上の世界と地域構成、結びつく現代世界、多様さを増す人間行動と現代世界などの学習。			前期 39 時間
2 地域性を踏まえて捉える現代世界の課題 世界の生活・文化の地理的考察や地球的課題の地理的考察をおこなう。諸地域の生活・文化と環境、近隣諸国の生活文化と日本、地球的課題などの学習。			後期 39 時間
履修上の注意			
地理は単なる暗記科目ではなく、気候計算ではある程度の数学力など、いわゆる応用力が必要となってくる。選択の際には十分留意のこと。			

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
地理歴史	日本史 A	日本史 A	2
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3 年次	通年	選択・必履修
履修条件			
講座内容			
1 「近代日本の形成と 19 世紀の社会」 ・ 国際社会の変化と幕藩体制の動揺 ・ 明治維新と近代国家の形成 ・ 国際社会の推移と近代産業の成立			前期 39 時間
2 「近代日本の歩みと国際関係」 ・ 第一次世界大戦と政党政治の展開 ・ 第二次世界大戦をめぐる国際情勢と日本			後期 39 時間
3 第二次世界大戦後の日本と世界 ・ 戦後政治の動向と国際社会 ・ 経済の発展と国民生活			
4 現代の日本と世界			
履修上の注意			
歴史の流れの理解を重視します。歴史的事項について 5W1H で説明できるように学習していきます。			

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
公民	現代社会	現代社会研究	2
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3年次	通年	選択
履修条件			
講座内容			通年 78時間
<p>第4章 国際社会の動向と日本の果たすべき役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ①国際社会のしくみと貿易の拡大 ②国際経済の動向 ③発展途上国の経済と南北問題 ④国際協調と日本の役割 <p>第5章 国際政治の動向と日本の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ①今日の国際社会 ②国家主権と国際法 ③国境と領土問題 ④地域紛争と人種・民族問題 ⑤国際連合の役割 			
履修上の注意			
新聞、テレビ等で、現代社会の諸問題に進んで触れるように努めること。予習復習はもちろんのこと、家庭学習では各自で問題演習も進めること。			

地 歴 科 (地理A)	普通 ・ 家政 科	(3) 年次
科目名 (時間割上)		(備考 配当時間・履修形態など)
地理A		選択履修 2単位
教材	地理A (東京書籍) 新詳高等地図 (帝国書院) 最新地理図表 GEO (第一学習社)	
指導到達目標と指導の工夫	世界の人々の暮らしと諸問題について、地理的な視点に立って理解できることを目標とする。	
課題	長期休業には課題を課す。	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査、提出物、授業への意欲・態度で評価する 	

年間計画 (科目ごとに年間の計画を記入)

科目	地理A			
4	○球面状の世界と地域構成 ☆球面状の世界／平面上の世界／日本の位置と領域／略地図を描こう			
5	○結びつく現代世界 ☆交通・通信の発達と世界の一体化／さまざまな人の移動で結びつく世界／もので結びつく世界／国家間の結びつき ○多様さを増す人間行動と現在世界 ☆多様化する消費生活／多様化する余暇活動／広がるボランティア活動			
6	○身近な地域の国際化の進展 ☆身近な地域の国際化を読む／地図からみる地域			
6・7	○世界的視野から見た自然環境と文化 ☆生活の舞台としての地形 ☆生活の舞台としての気候 ☆生活の舞台としての文化			
8・9	○諸地域の生活・文化と環境 ☆ヨーロッパの生活・文化と環境 ☆中部・南アメリカの生活・文化と環境 ☆東南アジアの生活・文化と環境 ☆西アジア・北アフリカの生活・文化と環境			
10	☆北アメリカの生活・文化と環境 ☆オセアニアの生活・文化と環境 ☆南アジアの生活・文化と環境 ☆中・南部アフリカの生活・文化と環境			
11	○近隣諸国の生活・文化と日本 ☆近隣諸国と日本 ☆韓国と日本 ☆中国の生活・文化と日本 ☆ロシアの生活・文化と日本			
12	○さまざまな地球的課題 ☆世界の人口問題 ☆世界の都市問題 ☆世界の食料問題 ☆世界の環境問題 ☆世界の資源・エネルギー問題			
1	○地球的課題をめぐる国際協力と日本 ☆地球的課題をめぐる国際協力と日本の課題 ☆近隣諸国の大気汚染への取り組みと日本 ☆東南アジアの熱帯林保全への取り組みと日本			
備考				

(地 歴) 科 (日本史A)	普通 ・ 家政 科	(3) 年次
科目名 (時間割上)		(備考 配当時間・履修形態など)
A	日本史A	2単位 (選択)
B		
C		
D		
教材	教科書：高等学校改訂版 日本史A (第一学習社) 資料集：日本史のライブラリー (とうほう)	
指導到達目標と指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の歴史を地理的条件と関連づけて多面的・多角的に考察させる。 ・我が国と世界の国々の関係にも注目させ、世界の中の日本という視点を持たせる。 ・地域の歴史についても着目させ、理解を深めさせる。 ・学習の成果をまとめ、発表する機会を設けるなどして、言語活動の充実をはかる。 	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査や長期休みに課題を課す 	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、提出物、授業への意欲・態度で評価する 	

年間計画 (科目ごとに年間の計画を記入)

科目	A 日本史 A	B	C	D
4	<u>第1章</u> 近代日本の形成と 19 世紀の世界			
5	第1節 国際環境の変化と幕藩体制の動揺			
6	第2節 明治維新と近代国家の成立			
7				
8	<u>第2章</u> 近代日本のあゆみと国際関係			
9	第1節 国際関係の推移と近代産業の成立			
10	第2節 政党政治の展開と大衆文化の形成			
11	第3節 第2次世界大戦と日本			
12	<u>第3章</u> 第2次世界大戦後の日本と世界			
1	第1節 戦後の政治と社会			
2	第2節 経済国家としての発展			
3	第3節 現代の日本と世界			
備考				

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
数学	数学Ⅱ	数学Ⅱ	2
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3年次	通 年	選択
履修条件 2年次に数学Ⅱを履修していること。			
講座内容 1 「いろいろな関数」の章では、三角関数、指数関数・対数関数を扱う。三角関数では、角の概念を一般の角にまで拡張し、グラフをかくなどして周期性の理解をはかる。また、指数関数・対数関数では、指数を0や負の整数にまで拡張し、関数値を求めてグラフをかく。 2 「微分と積分」では、微分係数、導関数の応用、積分とその応用を扱う。微分係数では、関数の平均変化率などを取り上げ、導関数の応用では、導関数の符号に着目し、関数の増加・減少を調べ、そのグラフの概形をかき、積分とその応用では、不定積分を定義して定積分の計算ができるようにする。			前期 39 時間 後期 39 時間
履修上の注意 少人数授業または習熟度別授業を予定している。			

科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
数学	数学 A	数学 A	1
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3年次	通 年	選択
履修条件 2年次に数学 A を履修していること。			
講座内容 「図形の性質」では、三角形の重心・外心・内心、円の性質（円周角の定理、円に内接する四角形など）などの平面図形の性質を学び、空間図形の基本的な性質も学ぶ。			前期 20 時間 後期 19 時間
履修上の注意 予習復習を欠かさないこと。 少人数授業を予定している。			

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
数学	数学 A	数学 A 研究	2
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3 年次	通年	選択
履修条件 2 年次に数学 A を履修していることが望ましい。 センター試験で数学 A を必要とする生徒が対象。			
講座内容 1. 直線や円などの平面図形の性質や位置関係を初等的な方法で調べることが学ぶ。図形の美しさを探究する楽しさを味わって欲しい。 2. 数学だけでなく、すべての学問で必要とされる論理の基本について学び、世界で通用する思考力を養って欲しい。			前期 39 時間 後期 39 時間
履修上の注意 予習復習を欠かさないこと。			

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
数学	数学活用	数学活用	2
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3 年次	通年	選択
履修条件			
講座内容 1. 数学が人間の活動にかかわって作られ発展したことやその方法を理解するとともに、数理的なゲームやパズルなどを通じて論理的に考えることの良さを認識し、数学と文化の関わりについて理解する。 2. 社会生活において数学が活用されている場面や身近な事象を数理的に考察するとともに、目的に応じてデータを収集し、データ漢の傾向をとらえ予測や判断をする。			前期 39 時間 後期 39 時間
履修上の注意 予習復習を欠かさないこと。 人数が少ない場合は開講しない。			

(数 学) 科 (科目)	普通 ・ 家 政 科	(3) 年次
科目名 (時間割上)		(備考 配当時間・履修形態など)
A	数学Ⅱ	2 単位 習熟 (2 年次からの継続履修) (α : 基礎 β : 標準)
B	数学 A	1 単位 選択履修 (2 年次からの継続履修)
C	数学 A 研究	2 単位 (本年度開講せず)
D		
教材	教科書：高校数学Ⅱ、高校数学 A (どちらも実教出版) 問題集：ステップノート数学Ⅱ、ステップノート数学 A(どちらも実教出版)	
指導到達目標と指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・数学Ⅱでは、α コースでは教科書の基本事項の完全マスターに重点を置く。β コースでは教科書にとどまらず問題集の演習に時間を割けるようにする。定期試験はできる限り共通問題で実施し、基本的内容を出題する。 ・微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。 ・三角関数では、1 年次での既習事項を関連付けて理解が容易になるよう配慮する。 ・指数関数では、指数法則を理解したのち無理なく導き、対数関数も関連付けながら丁寧に説明する。 ・数学 A では 3 つの内容のうち、図形の性質(1 単位分)を取り上げる。 ・平面図形では、中学校で学習した内容について丁寧に扱う。 ・数学 A 研究では 3 つの内容のうち、場合の数・確率、図形の性質(2 単位分)を取り上げる。 	
課題	授業ごとの課題：教科書や問題集の練習問題で授業中に指示 休業中の課題：それまでの復習と実践問題	
評価方法	定期考査をもっとも重視するが、課題考査、小テスト、課題の提出状況、授業中の意欲や態度などを総合的に評価する	

年間計画 (科目ごとに年間の計画を記入)

科目	A 数学Ⅱ(α β)	B 数学 A	C 数学 A 研究	D	
4	微分	平面図形	数え上げの原則		
5	積分		順列、組み合わせ		
6			三角関数		確率
7					
8					
9	指数関数		空間図形		平面図形
10					
11					
12	対数関数		空間図形		
1					
2					
3					
備考	α と β は、進度は共通で内容の深さが異なる				

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
理科	化学基礎	化学基礎研究	2
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3年次	通年(前期・後期)	選択
履修条件 2年次に化学基礎を履修していること			
講座内容 1. 原子や分子の質量の簡単な表し方や粒子の数で表す物質の量の単位 mol、化学変化前後の物質の量的関係を表す方法などについて学ぶ。 2. 私たちの生活や社会と関わりが深い化学反応である、酸塩基の性質や反応と酸化還元反応について学ぶ。			前期 39 時間 後期 39 時間
履修上の注意 実験を実施することがあるので、注意事項をよく聞いて怪我をしないように気を付ける。			

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
理科	生物基礎	生物基礎研究	2
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3年次	通年(前期・後期)	選択
履修条件 2年次に生物基礎を履修していること			
講座内容 1 「生物の特徴」では、生物の多様性と共通性を学び、原核細胞と真核細胞の違いを理解する。また、細胞とエネルギーの観点から代謝と ATP・光合成・呼吸などの仕組みを理解する。 2 「遺伝子とその働き」では、DNAの構造を理解し、DNAの抽出・遺伝情報の複製と分配など細胞周期についても学習する。また、遺伝情報とタンパク質の合成のしくみやタンパク質特に酵素などの働きについて学習していく。 3 「生物の体内環境」では体液とその働きによる恒常性の維持、血球・肝臓の働き・体液の濃度調節などを学習する。また、生体防御としての皮膚の役割、免疫におけるしくみ、免疫に関する身近な疾患と医療について学習していく。			前期 39 時間 後期 39 時間
履修上の注意 特に生物に興味のある者。将来、生物の深い知識を必要とする者。			

(理) 科 (化学基礎)		普通 ・ 家政 科	(3) 年次
科目名 (時間割上)		(備考 配当時間・履修形態など)	
A	化学基礎研究	2単位 選択履修	
教材	A 教科書 改訂 新編化学基礎 (東京書籍) ニューサポート 改訂 新編 化学基礎 (東京書籍)		
指導到達目標と指導の工夫	A 化学基礎 実験を中心とした授業展開で, 生徒の意欲を引き出す。		
課題	必要に応じて課題を設定する。		
評価方法	定期考査, 課題の提出状況などを総合的に評価する。		

年間計画 (科目ごとに年間の計画を記入)

科目	A 化学基礎研究			
4	物質と化学反応式			
5				
6	酸と塩基			
7				
8				
9	酸化還元反応			
10				
11				
12				
1				
2				
3				
備考				

(理) 科 (生物基礎研究)	普通 ・ 家政 科	(3) 年次
科目名 (時間割上)		(備考 配当時間 ・ 履修形態 など)
A	生物基礎研究	2 単位 選択履修
教材	A 教科書 高等学校 改訂 新生物基礎 (第一学習社) 副教材 改訂 ネオパルノート生物基礎 (第一学習社)	
指導到達目標と指導の工夫	A 生物基礎 生徒実験を行うことにより，興味・関心を高める。 生徒実験できない事項も，演示実験で示したり，教科書の写真やモデルを見せるようにする。	
課題	考查課題：副教材の問題集。考查範囲の指定した問題を解かせて提出させる。	
評価方法	定期考查，考查課題の提出状況，授業中の意欲や態度などを総合的に評価する。	

年間計画 (科目ごとに年間の計画を記入)

科目	A 生物基礎			
4	体内環境を維持するしくみ			
5				
6	生体防御			
7				
8				
9	植生と遷移			
10	気候とバイオーム			
11	生態系と物質循環			
12				
1				
2				
3				
備考				

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
保健体育	体育	体育	2
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3年次	通年	共通・必
履修条件			
講座内容			
1 体づくり運動 自己の体力や生活に応じて、体の調子をを整え体力の向上を図る。			前期 8 時間
2 体育理論 体育・スポーツに関する知識を理解できるようにし、運動の合理的な実践及び健康の増進と体力の向上に活用することができる資質や能力を身につける。			前期 6 時間
3 選択制授業 生徒一人一人に運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、また自分の能力・適性・興味・関心に応じた運動の行い方や楽しみ方や学び方を計画的に工夫する力をより一層育てることができる。			前期 25 時間 後期 39 時間
履修上の注意			
選択制授業の趣旨をよく理解し、積極的に授業に参加すること。			

令和5年度 保健体育科 年間指導計画

科目	学年	性別	科	単位	4			5				6				7				9				10				11				12				1		2						
					月	週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
体育	1	男子	普	2	体づくり運動			ソフトボール				ダンス	体づくり運動	陸上競技				バスケットボール				器械体操				サッカー																		
		女子	普・家	2	体づくり運動			バレーボール						バドミントン				器械体操				陸上競技		バスケットボール																				
	2	男子	普	3	体づくり運動			前期選択制授業 (バレーボール・バドミントン・ソフトボール・テニス・卓球・バスケットボール) ※(陸上競技・器械体操・ダンス・柔道) ※種目より前中後期の内1回以上選択				ダンス	体づくり運動	中期選択制授業 (バレーボール・バドミントン・ソフトボール・テニス・卓球・バスケットボール) ※(陸上競技・器械体操・ダンス・柔道) ※種目より前中後期の内1回以上選択				後期選択制授業 (バレーボール・バドミントン・サッカー・テニス・卓球・バスケットボール) ※(陸上競技・器械体操・ダンス・柔道) ※種目より前中後期の内1回以上必ず選択																										
		女子	普・家	3	体づくり運動			前期選択制授業 (バレーボール・バドミントン・ソフトボール・テニス・卓球・バスケットボール) ※(陸上競技・器械体操・ダンス・柔道) ※種目より前中後期の内1回以上選択						中期選択制授業 (バレーボール・バドミントン・ソフトボール・テニス・卓球・バスケットボール) ※(陸上競技・器械体操・ダンス・柔道) ※種目より前中後期の内1回以上選択																														
	3	男子	普	2	体づくり運動			前期選択制授業 (バスケットボール・バレーボール・バドミントン・ソフトボール・卓球・テニス・バードゴルフ・ペタンク・陸上競技・器械体操・ダンス・柔道)				ダンス	体づくり運動	前期選択制授業	後期選択制授業 (バスケットボール・バレーボール・バドミントン・サッカー・卓球・テニス・バードゴルフ・ペタンク・陸上競技・器械体操・ダンス・柔道)																													
		女子	普・家	2	体づくり運動			体育理論(6)																																				
	2	男女	普	1	スポーツⅡ(器械体操・陸上競技・バドミントン・バレーボール・専門種目等)																																							
	保健	1	全員	普・家	1	現代社会と健康																																						
		2				生涯を通じる健康																			社会生活と健康																			

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
音楽	ソルフェージュ	ソルフェージュ	2
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3年次	通年	選択
履修条件			
「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」を履修していることが望ましい。			
講座内容			78時間
受験に必要なソルフェージュ・音楽理論・音楽実技等を履修者の希望や実状に応じて展開する。			
履修上の注意			
音楽が受験で必要になる生徒を対象とする。			

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
書道	実用書道	実用書道	2
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3年次	通年	選択
履修条件			
講座内容			78時間
1. 硬筆習字や毛筆での細字の学習を通して、いわゆる実用に適した書の技術を体得していく。 履歴書、手紙封筒書き、金封の書き方など			
履修上の注意			

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
美術	クラフトデザイン	クラフトデザイン	2
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3年次	通年	選択
履修条件			
将来デザインに関する進路を希望しているものが履修すること。			
講座内容			78時間
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「デザインの基礎」「図法、製図」では、色彩や構成に関するデザインの基礎的な内容を学習する。 2. 「工芸」では、石こう・木材・石・発砲スチロールなど様々な素材を使っての作品制作を行う。 3. 「伝統工芸」では、備前焼を中心とした陶芸を行う。 4. 「鑑賞」では、デザインに関する各分野の作品を鑑賞し、観る力を養う。 			
履修上の注意			
美術Ⅰ、美術Ⅱを履修していなくても選択科目として履修できる。			

(美術) 科		普通 ・ 家政 科	(3) 年次
科目名 (時間割上)		(備考 配当時間・履修形態など)	
A	クラフトデザイン	2単位 選択履修	
B			
C			
D			
教材	美術3		
指導到達目標と指導の工夫	<p>美術Ⅱでの活動を踏まえ、より創造的な活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術に親しむ心情を育てる。</p> <p>指導の工夫としては、課題の導入として鑑賞活動を、課題の終わりに生徒作品の相互鑑賞やプレゼンテーションを取り入れ、様々なものに触れあう機会を作り、感じたり思ったりしたことを言葉にまとめる学習をおこなう。</p>		
課題	ワークシート・作品・振り返りシートの提出		
評価方法	完成作品・制作途中作品・活動の様子・ワークシート・振り返りシートなどから総合的に評価する。		

年間計画 (科目ごとに年間の計画を記入)

科目	A クラフトデザイン	B	C	D
4	・ ガイダンス			
5	・ 寄木細工			
6				
7	・ 陶芸制作①			
8				
9	・ 陶芸制作②			
10				
11	・ 染色①			
12				
1	・ 染色②			
2				
3				
備考				

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
外国語 (英語)	コミュニケーション英語Ⅱ	コミュニケーション英語Ⅱ	3
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3年次	通年	共通
履修条件 コミュニケーション英語Ⅰを履修していること。2, 3年次継続履修。			
講座内容 幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力をさらに伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことを目標とする。 コミュニケーション英語Ⅰで学習したことを基礎にして、さらに進んだ内容を総合的に学習する。			117時間
履修上の注意 語彙数が多くなるため、単語を覚えることにも力を入れ、予習・復習をしっかりとすること。			

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
外国語 (英語)	異文化理解	異文化理解	2
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3年次	通年	選択
履修条件 特になし			
講座内容 異文化や自文化について学習し発表することを通して、文化について理解し、異文化理解の必要性について考えを深め、異文化に対して寛容な態度を身につける。また、世界が抱える諸問題についても意識を高め、多文化共生社会において活躍できる力を身につける。			78時間
履修上の注意			

(外国語 (英語)) 科 (科目)		普通 ・ 家政 科	(3) 年次
科目名 (時間割上)		(備考 配当時間・履修形態など)	
A	コミュニケーション英語Ⅱ	3 単位	
B	異文化理解	2 単位 (選択者)	
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション英語Ⅱ : NEW ONE WORLDⅡ (教育出版) ・異文化理解 : Watching News (浜島書店) 		
指導到達目標と指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の語句や重要表現を用いて、自分の考えを英語で話すことができる。 ・自分の意見や感想などを3文以上の英語で書くことができる。 ・教科書の文章を読み段落ごとの大意をつかむことができる。 ・コミュニケーション英語Ⅱの教科書の本文を英語らしく音読することができる。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・英文法ドリル ・総合問題集 ・スタディサプリ 		
評価方法	定期考査, 課題考査, 小テスト 課題の提出状況, 授業中の意欲や態度 などを総合的に評価		

年間計画 (科目ごとに年間の計画を記入)

科目	A コミュニケーション英語Ⅱ	B 異文化理解	
4	Grammar Focus ①～⑤ Lesson5 How Climate Changes Are Affecting Us	1 Professional Climber Nonaka Miho	
5	(第1回考査)	2 18-Year-Olds Are Adults (第1回考査)	
6	Lesson 6 English Textbooks from Around the World Lesson7 The Hayabusa Project	3 Qatar's Culture and Industries 4 Kudeju Furniture System 5 The Coldest Settlement on the earth	
7	(第2回考査)	(第2回考査)	
8	Lesson 8 The Origin of Santa Claus Lesson9 The Only Japanese on the Titanic	6 Street Artist Banksy 7 Digital Age Music Group YOASOBI	
9		8 Space Travel Is Now a Reality 9 Crowdfunding	
10	(第3回考査)	(第3回考査)	
11	Lesson10 Japanese Agriculture Is Changing Reading Rita, a Woman Who Loved Japan and Its People	10 Rabbit Island in the Seto Inland Sea 11 Climate Scientist Received Nobel Prize	
12	(第4回考査)	12 A Lifetime in 1.5 Billion Beats (第4回考査)	
1	Function in use ①～⑤	13 New Kinds of "Meat" 14 Carbon Neutrality by 2050	
2			
3			
備考			

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
家庭(専)	課題研究	課題研究	3
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3年次	通年	共通
履修条件			
講座内容 食物調理1級 家庭科技術検定 食物調理1級の取得を目指す。 高度な技術が調理に応用でき、課題に応じた供応食、行事食などの献立作成および調理ができる力をつける。 洋服1級 家庭科技術検定 被服製作(洋服)1級の取得を目指す。 ジャケットの製作を通して、洋服の構成と製作に関する知識・技術を習得し、検定へ取り組む態度を養う。 和服1級 家庭科技術検定 被服製作(和服)1級の取得を目指す。 ひとえ長着(ゆかた)の製作を通して、和服の構成と製作に関する知識・技術を習得し、検定への取り組む態度を養う。 資格取得 漢字検定の取得を目指す。			前期 59 時間 後期 58 時間
履修上の注意			
<ul style="list-style-type: none"> 課題研究は、前期は洋服1級、和服1級、食物調理1級の3講座から選択する。後期は洋服1級、食物調理1級、資格取得(漢検)の3講座から選択する。 			

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
家庭(学)	ライフコーディネート	ライフコーディネート	2
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3年次	通年	選択
履修条件			
講座内容 私たちの生活(ライフ)を豊かにコーディネートする力を養う。 1 色のしくみ 2 配色のルール 3 色の不思議 4 探そう、生活の中の色使い リビングとカラー、ファッションとカラー、フードとカラー 5 花材の扱いとフラワーアレンジメント 6 生活を彩る作品製作			通年 78 時間
履修上の注意			

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
家庭(専)	生活産業情報	MM実習	2
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3年次	通年	選択
履修条件			
講座内容 コンピュータによる情報処理の手順、基本操作を学ぶ。また、日本情報処理検定協会日本語ワープロ検定 上級を目指す。 1. Word の基本操作 2. Excel の基本操作 3. PowerPoint の基本操作 4. PhotoShop Elements の基本操作 など ※日本語ワープロ検定 7月 準2級 2級 準1級 1級			通年 78 時間
履修上の注意			

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
家庭(専)	消費生活	消費生活	2
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3年次	通年	選択
履修条件			
講座内容 1 経済の発展や社会の変化に伴う消費生活の変化について学習する。 2 商品・サービスの選択について適切な意思決定ができる力を身につける。 3 消費者の権利と責任など消費生活に関する知識と技術を学ぶ。 4 環境保全に配慮した消費生活に寄与する能力と実践的な態度を身につける。			通年 78 時間
履修上の注意			

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
家庭(専)	子ども文化	保育演習	4
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3年次	通年	選択
履修条件			
講座内容 1. 子どものための文化活動、児童文化財、児童文化施設などの重要性について学習する。 2. 造形表現活動、言語表現活動、音楽・身体表現活動、情報手段などを活用した活動の意義と重要性について体験を通して学習する。 3. 児童文化財の創作活動や製作等の実習を行い、地域の子どもとの交流を体験する。 4. 保育者となるための感性や創造力、表現力を身につける。 * 保育検定2級受検			通年 156 時間
履修上の注意			

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
家庭(専)	ファッション造形	ファッション造形	4
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3年次	通年	選択
履修条件			
講座内容 デザインや着用目的に応じたファッション造形の知識と技術について理解し、各自の個性が表現できる作品製作を行う。また、ウォーキングなど、製作した作品を着装して表現する方法について理解する。			通年 156 時間
履修上の注意			

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
家庭(専)	調理	調理	4
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3年次	通年	選択
履修条件			
講座内容			通年 156 時間
<p>1 和食・洋食・中華の様式別の調理について、その調理法・食材の扱いマナーなどに関する知識と技術の習得を目指して学習する。</p> <p>2 年間5回外部講師を迎えてより専門的に調理を学ぶ。 (洋食・和食・和菓子)</p> <p>3 毎週1回2時間の調理実習を行う。</p>			
履修上の注意			

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
家庭(専)	栄養	栄養	2
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3年次	通年	共通
履修条件			
講座内容			通年 78 時間
<p>1. 「栄養素の機能」では、炭水化物、脂質、たんぱく質、無機質、ビタミンの各栄養素の種類及び栄養素の機能と代謝の概要を学習する。</p> <p>2. 「ライフステージと栄養」では、各ライフステージにおける身体的・生理的特徴を理解し、それに応じた栄養と食事構成の概要について学習する。</p> <p>3. 「病態と栄養」では、エネルギーや栄養素の過不足によるおもな病気と食事療法、胃腸疾患、高血圧、糖尿病等の病体に応じた栄養と食事構成についてその概要を学習し、適切な栄養摂取ができるようにする。</p>			
履修上の注意			

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
家庭(専)	服飾手芸	服飾手芸	2
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3年次	通年	選択
履修条件			
講座内容 手芸の種類と変遷を地域の伝統文化や歴史などとあわせて学ぶ。 各種手芸の技法などに関する基礎的な知識と技法を身につけ、手芸品の製作を行う。 1 刺しゅう 基本的な技法を学ぶ 2 編み物 棒針編み・かぎ針編み 3 染色 外部講師による作品作成 4 その他 羊毛フェルト・ペーパークイリングなど興味関心に応じて			通年 78 時間
履修上の注意			

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
家庭(学)	生活教養	生活教養	2
履修学科	履修年次	期	履修形態
普通科・家政科	3年次	通年	選択
履修条件			
講座内容 生活の各場面において必要な礼儀・作法、マナーについて学び、それを実行できる(相手を大切に思う心をスマートな形に表現できる)「マナー美人」を目指す。 さらに社会人として必要なマナーや常識を学習し、秘書検定2、3級合格を目指す。 1 挨拶と美しい所作 (基本の挨拶 姿勢 歩く 優雅な所作 和室洋室での所作) 2 お祝いとお悔やみのマナー (結婚式・披露宴のマナー 葬儀・告別のマナー) 3 暮らしのマナー (会話 電話・メール 訪問 来客のお迎え 公共の場 贈り物 お中元・お歳暮 お見舞い 手紙のマナー) 4 テーブルマナー (食事の基本 和食 洋食 中華 立食のマナー) 5 ビジネスのマナー (敬語 挨拶 電話の受け答え 来客応対 席次の基本)			通年 78 時間
履修上の注意			

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数
福祉(専)	コミュニケーション技術	コミュニケーション技術	2
履修学科	履修年次	期	履修形態
家政科	3年次	通年	選択
履修条件			
講座内容 1. 介護におけるコミュニケーションでは、コミュニケーションの意義と役割やコミュニケーションの基本技術について学習する。 2. サービス利用者に応じたコミュニケーションでは、障害の理解と障害のある人とのコミュニケーションの方法について学習する。 3. 「コミュニケーションの技法」では、点字や手話を取り上げ、その最も基本的な部分について学習し、コミュニケーションの大切さを理解する。			通年 78時間
履修上の諸注意			

(家庭 (被服分野)) 科 (科目)		普通 ・ 家政 科	(1～3) 年次
科目名 (時間割上)		(備考 配当時間・履修形態など)	
A	1年 家庭総合	全員履修	通年3単位の中での被服分野
B	1年 ファッション造形基礎	全員履修	通年2単位 (T・T)
C	2年 ファッション造形	選択履修	通年2単位
D	2年 服飾文化	選択履修	通年2単位
E	2年 課題研究(洋服2級)	選択履修	通年2単位 (半期で変更)
F	2年 課題研究(和服2級)	選択履修	通年2単位 (半期で変更)
G	3年 服飾手芸	選択履修	通年2単位
H	3年 課題研究(洋服1級)	選択履修	通年3単位 (半期で変更)
I	3年 課題研究(和服1級)	選択履修	通年3単位 (半期で変更 前期のみ)
J	3年 ファッション造形	選択履修	通年4単位
教材	A 家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)、スーパーライブビュー家庭科 (東京書籍) 家庭科問題集基礎編		
	B ファッション造形基礎 (実教) 家庭科問題集 被服編		
	C ファッション造形 (実教) 家庭科問題集 被服編		
	D 服飾文化(教育図書)		
	E 家庭科問題集 被服編		
	F 家庭科問題集 被服編		
	G なし		
	H 家庭科問題集 被服編		
	I 家庭科問題集 被服編		
	J ファッション造形 (実教)		
指導到達目標と指導の工夫	A 被服の機能、被服材料、被服管理などについて科学的に理解し必要な知識と技術を習得する。被服3級受検。		
	B 甚平の製作等を通じて被服製作に関する基本的な知識と技術を習得する。被服4級受検。		
	C 被服製作を通じて被服製作に関する基本的な知識と技術を習得する。		
	D 被服の基本型と文化、着装などに関する知識と技術を習得する。		
	E 洋服(ブラウス)の種類と特徴を理解し、計画に従って洋服を能率的に製作できる。洋服2級受検。		
	F 和服(甚平)の種類と特徴を理解し、計画に従って洋服を能率的に製作できる。和服2級受検。		
	G 刺繍、編物、染色、その他の手芸などに関する知識と技術を習得し、作品を創造的に製作する。		
	H 洋服(ジャケット)の種類と特徴を理解し、計画に従って洋服を能率的に製作できる。洋服1級受検。		
	I 和服(浴衣)の種類と特徴を理解し、計画に従って洋服を能率的に製作できる。和服1級受検。		
	J ワンピースドレス等の製作を通じて基本的な知識と技術を習得する。ファッションショーにて発表。		
課題	特になし		

評価方法	A	定期考査	実習、課題の提出状況、授業中の意欲や態度	などを総合的に評価
	B	定期考査	実習、課題の提出状況、授業中の意欲や態度	などを総合的に評価
	C	定期考査	実習、課題の提出状況、授業中の意欲や態度	などを総合的に評価
	D	定期考査	実習、課題の提出状況、授業中の意欲や態度	などを総合的に評価
	E	定期考査	実習、課題の提出状況、授業中の意欲や態度	などを総合的に評価
	F	定期考査	実習、課題の提出状況、授業中の意欲や態度	などを総合的に評価
	G	定期考査	実習、課題の提出状況、授業中の意欲や態度	などを総合的に評価
	H	定期考査	実習、課題の提出状況、授業中の意欲や態度	などを総合的に評価
	I	定期考査	実習、課題の提出状況、授業中の意欲や態度	などを総合的に評価
	J	定期考査	実習、課題の提出状況、授業中の意欲や態度	などを総合的に評価

年間計画 (科目ごとに年間の計画を記入)

科目	1年家庭総合	1年ファッション造形基礎	2年ファッション造形	2年服飾文化	2年課題研究(洋2級)	2年課題研究(和2級)	
4	衣生活をつくる 被服の役割を考える	基礎縫い ミシン縫い	採寸	服飾の変遷と文化	ブラウスの種類と特徴	甚平の種類と特徴	
5			製図の書き方(文化式)	ひとえ長着の構成	型紙作り	事前作業	
6			裏付きスカート製作	裁断	縫製	裁断	裁断
7	被服を入手する	被服4級受験	裁断・印付け	和服の製作	縫製	縫製	
8	被服を管理する パンツの種類と特徴	甚平の種類と特徴	裁断・印付け	和服の製作	筆記テスト対策	筆記テスト対策	
9	型紙作り	デザイン画講習会	縫製	日本と世界の服飾について	洋服2級検定	和服2級検定	
10	型紙作り	裁断・印付け	縫製		ボタンホール作り	ボタンつけ	
11	裁断・印付け	縫製	縫製		ブラウスの種類と特徴	甚平の種類と特徴	
12	縫製	裁断・印付け	縫製		型紙作り	事前作業	
1	被服3級受験	裁断・印付け	縫製	和服のたたみ方	裁断	裁断	
2			ピンワーク講習会	和服の着装	縫製	縫製	縫製
3			ワンピースの製作製図	和服の着装	筆記テスト対策	筆記テスト対策	筆記テスト対策
1			裁断・印付け	和服の着装	洋服2級検定	和服2級検定	
2		縫製	縫製	和服の着装	ボタンホール作り	ボタンつけ	
3		縫製	縫製	着付け講習会	ボタンつけ	雛人形の製作	
1		縫製	縫製	着付け講習会	雛人形の製作	雛人形の製作	
2		縫製	縫製	着付け講習会	雛人形の製作	雛人形の製作	
3		縫製	縫製	着付け講習会	雛人形の製作	雛人形の製作	
備考							

年間計画 (科目ごとに年間の計画を記入)

科目	3年服飾手芸	3年課題研究 (洋1級)	3年課題研究 (和1級)	3年ファッション造形		
4	簡単な手芸品 作り	ジャケットの種類 と特徴	浴衣の種類と 特徴	ワンピースの 種類と特徴		
5	刺繍	事前作業 型紙作り	事前作業 裁断	デザイン選定 【1作品目】 製図		
6	簡単な手芸品 作り	しるしつけ 縫製	しるしつけ 縫製	仮縫い 補正 裁断		
7		筆記テスト対 策	筆記テスト対 策	しるしつけ 縫い代の始末		
8		洋服1級検定	和服1級検定	本縫い 仕上げ・装飾		
9	編み物	事後作業 まとめ		文化祭ステー ジ発表 【2作品目】 製図		
10	簡単な手芸品 作り	ジャケットの種類 と特徴		仮縫い・補正 裁断・縫製 【3作品目】 製図		
11	染色	事前作業 型紙作り		裁断・縫製 ウォーキング 講習会		
12		しるしつけ 縫製		しるしつけ 縫い代の始末 本縫い 仕上げ・装飾		
1	家政科展に作 品展示	筆記テスト対 策		家政科展ファ ッションショ ー発表		
2		洋服1級検定				
3		事後作業 まとめ				
備考	太字：社会人 講師授業					

(家庭 (食物分野)) 科 (科目)		普通 ・ 家政 科	(1～3) 年次
科目名 (時間割上)		(備考 配当時間・履修形態など)	
A	1年 家庭総合	全員履修	3単位の中での食物分野 (前期2単位 後期1単位)
B	1年 フードデザイン	全員履修	通年2単位 (T・T)
C	2年 フードデザイン	全員履修	通年2単位 (T・T)
D	2年 食品	選択履修	通年2単位
E	3年 栄養	全員履修	通年2単位
F	3年 調理	選択履修	通年4単位
G	3年 課題研究 (食物1級)	選択履修	通年3単位 (半期で変更)
教材	A	教科書：家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍) スーパーライブビュー家庭科 (東京書籍)	
	B	教科書：フードデザイン (実教出版) スーパーライブビュー家庭科 (東京書籍)	
	C	教科書：フードデザイン (実教出版) スーパーライブビュー家庭科 (東京書籍)	
	D	教科書：食品と栄養の特性 (社団法人 全国調理師養成施設協議会)	
	E	教科書：栄養 (実教出版) [準教科書] スーパーライブビュー家庭科 (東京書籍)	
	F	教科書：調理2 (実教出版) スーパーライブビュー家庭科 (東京書籍)	
	G	スーパーライブビュー家庭科 (東京書籍)	
指導到達目標と指導の工夫	A	食べる大切さと楽しさを学ぶ。食物調理4級合格を目指す。五大栄養素を理解する。	
	B	日常食の実習を通して、食品の特性・栄養について理解する。全国高校生料理コンクール応募。食物調理3級検定受験。	
	C	日常食の実習を通して、食品の特性・栄養やテーブルコーディネートについて理解する。食物調理2級検定受験。	
	D	食品の特性と性質を実験実習を通して理解し、さまざまな食品を利用した調理実習をする。	
	E	ライフステージと栄養について理解する。	
	F	供応食・行事食の調理技術の取得。外部講師の授業・年間5回	
	G	食物検定1級の取得	
課題	A	検定練習。台ふきん (さらしふきん) 作成。	
	B	検定練習。	
	C	検定練習。	
	D	「食」に関心を持ち、自ら調べたり、実習をおこなう。料理コンクール応募。	
	E	栄養素について考える。献立を考える。	
	F	デザートプレートを考える。	
	G	家庭科問題集「食物編」食物検定1級範囲	
評価方法		定期考査、	小テスト、実習、課題の提出状況、授業中の意欲や態度などを総合的に評価
	A	定期考査	小テスト、実習、課題の提出状況、授業中の意欲や態度などを総合的に評価
	B	定期考査	小テスト、実習、課題の提出状況、授業中の意欲や態度などを総合的に評価
	C	定期考査	小テスト、実習、課題の提出状況、授業中の意欲や態度などを総合的に評価
	D	定期考査	実習の意欲や態度 ノートの提出状況 (考察や感想・まとめ方)などを総合的に評価
	E	定期考査	実習、課題の提出状況、授業中の意欲や態度などを総合的に評価
	F	定期考査	実習、課題の提出状況、授業中の意欲や態度などを総合的に評価
G	定期考査	課題の提出状況、授業中の意欲や態度、検定結果などを総合的に評価	

年間計画 (科目ごとに年間の計画を記入)

科目	1年家庭総合	1年フードデザイン	2年フードデザイン	2年食品	3年栄養	3年調理	3年課題研究
4	ガイダンス 食生活をつくる	調理室の使い方 栄養素 無機質	食の衛生と安全	食品学とは	5 大栄養素の復習	調理実習① 調理実習②	説明 筆記対策
5	食物検定4級説明・練習	調理実習① ビタミン	調理実習① 調理実習②	穀類	乳児期	調理実習③ 第1回考査 調理実習④	献立の考案 ↑↓ 作成
6	栄養素 炭水化物 脂質	調理実習② 調理実習③	消化吸収 社会人講師 (日本料理)	いも類	幼児期	調理実習⑤ 社会人講師 (洋食)	↓↑ 献立表の作成
7	たんぱく質 食物検定4級 食事摂取基準	食物3級検定説明 夏休み課題	調理実習③ 調理実習④	砂糖類 豆類	学童期 成人期	調理実習⑥ 調理実習⑦ 第2回考査	筆記 実技
8	食品摂取量のめやす						
9			コンクール 応募 調理実習⑤	コンテスト作品 応募		文化祭準備 社会人講師 (和食)	
10		コンクール応募 検定実技・筆記対策 調理実習④	食物調理2 級検定説明 献立作成 試作	野菜類 果物類	青年期 高齢期	(和菓子) 調理実習⑧ 調理実習⑨ 調理実習⑩	説明 筆記対策 献立の考案 ↑↓
11		実技練習 筆記対策	筆記対策 テーブル コーディネート	魚介類 卵類		調理実習⑪ 家政科展準備	作成 ↓↑ 献立表の作成
12		食物3級目測・ 実技・筆記試験 調理実習⑤	調理実習⑥ 食物2級実技 試験	乳類 油脂類		第4回考査 家政科展準備	筆記 実技
1			家政科展準備	香辛料	まとめ	家政科展	
2		家政科展準備	調理実習⑦ 社会人講師	食品の表示			
3		調理実習⑥ 社会人講師(シャ ロン) 調理実習⑦ 調理実習⑧	(テーブルコー ディネー ト)				
備考				・調理実習 7回程度実施 ・生衛業出前教 室	調理実習 3～5回程 度		

(家庭 (保育)) 科 (科目)		普通 ・ 家政 科	(1～3) 年次
科目名 (時間割上)		(備考 配当時間・履修形態など)	
A	1年 家庭総合	全員履修 通年3単位	
B	2年 子どもの発達と保育	全員履修 通年2単位	
C	2年 子どもの文化	選択履修 通年2単位	
D	3年 保育演習	選択履修 通年4単位	
E			
教材	A	教科書：家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍) スーパーライブビュー家庭科 (東京書籍)	
	B	教科書：子どもの発達と保育 育つ・育てる・育ち合う (教育図書)	
	C	教科書：子どもの文化 (教育図書)、副教材：保育実技 児童文化財の魅力とその活用・展開 (萌文書林)	
	D	教科書：子どもの文化 (教育図書)、副教材：保育実技 児童文化財の魅力とその活用・展開 (萌文書林)	
	E		
指導到達目標と指導の工夫	A	子どもの発達と保育について理解し、家族及び地域や社会の果たす役割を学ぶ。	
	B	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。	
	C	子どもと遊び、子どもの表現活動、児童文化財などに関する知識と技術を習得させ、子ども文化の充実を図る能力と態度を育てる。	
	D	児童文化財の制作や保育実習等を通して、保育に従事するための専門的な知識や技術を学ぶ。	
	E		
課題	A		
	B		
	C		
	D		
	E		
評価方法	A	定期考査、	小テスト、実習、課題の提出状況、授業中の意欲や態度などを総合的に評価
	B	定期考査	課題の提出状況、授業中の意欲や態度などを総合的に評価
	C	定期考査	実習、課題の提出状況、授業中の意欲や態度などを総合的に評価
	D	定期考査	実習、課題の提出状況、授業中の意欲や態度などを総合的に評価
	E	定期考査	実習、課題の提出状況、授業中の意欲や態度などを総合的に評価

年間計画 (科目ごとに年間の計画を記入)

科目	1年家庭総合	2年子どもの発達と保育	2年子ども文化	3年保育演習			
4		性周期と妊娠	子ども文化の重要性	年間計画・保育検定2級説明			
5		母体の変化と胎児の発育、出産	子どもと遊び	保育検定2級練習(造形・言語・音楽リズム・家庭看護)			
6		子どもの発達の特性	保育検定3級の説明				
7		保育検定4級	練習				
8		子どもの発達過程	・造形 ・言語 ・音楽リズム ・家庭看護	保育検定2級 リトミック			
9		・身体発育と運動機能の発達	保育検定3級				
10		・認知情緒の発達 ・人間関係の発達	子どもの表現活動の意義	廃物を利用した壁面構成 幼稚園実習			
11		子どもの生活	重要性	創作素話			
12		・幼稚園実習	・児童文化財の制作	家政科展の準備・練習			
1	子どもと共に育つ命を育む	・育児体験実習		創作素話発表 家政科展に向けて準備・練習			
2	子どもの育つ力を知る	・基本的な生活習慣の形成	子どもの文化を支える児童文化施設	幼稚園実習 家政科展の準備・練習			
3		保育の意義と重要性 保育環境 子どもの福祉と子育て支援	保育実習 まとめ	発表 (家政科展)			
備考							

(家庭 (福祉分野)) 科 (科目)		普通 ・ 家政 科	(1～3) 年次
科目名 (時間割上)		(備考 配当時間・履修形態など)	
A	1年 家庭総合	全員履修	3単位の中での福祉分野
B	2年 生活と福祉	全員履修	通年2単位 (T・T)
C	2年 社会福祉基礎	選択履修	通年2単位
D	3年 コミュニケーション技術	選択履修	通年2単位 (T・T)
E	1年 ボランティア基礎	全員履修	通年1単位
教材	A	教科書：家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍) スーパーライブビュー家庭科 (東京書籍)	
	B	準教科書：生活と福祉 (実教出版) / 生活と福祉学習ノート (実教出版)	
	C	教科書：社会福祉基礎 (実教出版)	
	D	準教科書：コミュニケーション技術 (実教出版)	
	E		
	F		
	G		
指導到達目標と指導の工夫	A	現在の高齢者の生活や介護の実態を見つめ、高齢社会について考えることができる。 福祉について学習し、困った人悩んでいる人をどのように支えられるかを考えることができる	
	B	高齢者の健康と生活、介護の知識と技術を習得し、自立生活支援と福祉の充実に寄与する能力と態度を身につける。	
	C	現代社会と社会福祉のかかわり児童家庭福祉・障害者福祉の現状と課題について理解する。	
	D	コミュニケーション技術の基本について学ぶ。点字について理解する。挨拶程度の手話ができる。文化祭や家政科展で手話歌の発表をする。	
	E	ボランティア活動の理念と意義を理解し、社会福祉に寄与する実践的態度を身につける。	
課題	A		
	B		
	C		
	D		
	E		
	F		
	G		
評価方法		定期考査	小テスト、実習、課題の提出状況授業中の意欲や態度などを総合的に評価
	A	定期考査	実習、課題の提出状況授業中の意欲や態度などを総合的に評価
	B	定期考査	実習、課題の提出状況授業中の意欲や態度などを総合的に評価
	C	定期考査	実習、課題の提出状況授業中の意欲や態度などを総合的に評価
	D	定期考査	実習、課題の提出状況授業中の意欲や態度などを総合的に評価
	E	定期考査	実習、課題の提出状況授業中の意欲や態度などを総合的に評価
	F		

年間計画 (科目ごとに年間の計画を記入)

科目	1年家庭総合	2年生活と福祉	2年社会福祉基礎	3年コミュニケーション技術	1年ボランティア基礎
4		ライフステージと健康管理	社会福祉の理念と意義	介護におけるコミュニケーションとは	ボランティアとは
5		・ベッドメイキング		・受容と共感	ボランティア活動の現状
6		・体位変換		・点字	ボランティア活動の心得
7		生活習慣と健康	社会福祉の歴史と社会福祉の課題	サービス利用者に応じたコミュニケーション	ボランティア活動の種類
8		高齢者の心身の特徴と病気		・手話歌	優しい社会
9		・移動介護		文化祭発表	ボランティア計画
10		食事の介護	・調べ学習	・傾聴とは	ボランティア実践
11		・食事介助	生活を支える社会福祉・社会保障制度	手話歌作り	夏季休業中
12		高齢化の現状	・調べ学習	家政科展に向けて手話歌に取り組む	実践発表
1	高齢社会を生きる	高齢者の生活課題と施策	人間関係とコミュニケーション	チームコミュニケーション	各種実習
2	共に生き、共に支える	・衣類着脱の介護		・手話歌発表	・歩行介助
3	私たちの生活と福祉	口腔の清潔			・車いす介助
3	社会保障の考え方	自立支援の基本となる考え方			・製作ボランティア施設へのお土産作り
		高齢者の介護			・老人保健施設実習
		排泄の介護			調べ学習
		・レクリエーション実習			・社会とボランティア
		・体温・脈拍呼吸・血圧の測定			
		・応急手当・心肺蘇生法			
		褥瘡			
		糖尿病			手話
		介護保険制度	地域福祉の進捗と多様な社会福祉支援制度		点字
備考					

(家庭 (住居)) 科 (科目)		普通 ・ 家政 科	(1 ～ 2 年) 年次
科目名 (時間割上)		(備考 配当時間・履修形態など)	
A	1年 家庭総合	全員履修 通年3単位の中での住居分野	
B	2年 リビングデザイン	選択履修 通年2単位	
C			
D			
教材	A 家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)、スーパーライブビュー家庭科 (東京書籍)		
	B リビングデザイン (実教出版)		
指導到達目標と指導の工夫	A 住居の機能、住生活と健康・安全などに関する基礎的な知識と技術を習得する。		
	B 生活と住居、住居の設計、インテリアなどに関する知識と技術を習得する。		
課題	A		
評価方法	A	定期考査	課題の提出状況、授業中の意欲や態度 などを総合的に評価
	B	定期考査	実習, 課題の提出状況, 授業中の意欲や態度 などを総合的に評価

年間計画 (科目ごとに年間の計画を記入)

科目	A 1年家庭総合	B 2年 リビング デザイン		
4		住生活と住居の変遷		
5				
6		【武家屋敷町家見学】		
7		住生活と環境		
8		住居の選択と管理		
9		住居の設計 ・平面計画 ・設計図面作成		
10		インテリア ・インテリアコーデ ィネート		
11		住生活の充実・向上 ・インテリアグッズ 製作		
12				
1	住生活をつくる 住生活について考える			
2	住生活の計画と選択			
3				
備考				

(家庭 (消費分野)) 科 (科目)		普通 ・ <u>家政</u> 科	(1～3) 年次
科目名 (時間割上)		(備考 配当時間・履修形態など)	
A	1年 家庭総合	全員履修 通年3単位の中での消費分野	
B	3年 消費生活	選択履修 通年2単位	
教材	A 教科書：家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)、スーパーライブビュー家庭科 (東京書籍)		
	B 教科書：消費生活 (文部科学省)		
指導到達目標と指導の工夫	A 家庭経済や消費生活に関する基礎的な知識を習得し、消費者として責任をもって行動できる。		
	B 消費者の権利と責任など消費生活に関する知識と技術を習得させ、実践的態度を育てる。		
課題	A		
	B		
評価方法			
	A	定期考査	課題の提出状況、授業中の意欲や態度などを総合的に評価
	B	定期考査	実習、課題の提出状況、授業中の意欲や態度などを総合的に評価

年間計画 (科目ごとに年間の計画を記入)

科目	1年家庭総合	3年消費生活					
4		消費者と消費生活					
5		VTR					
6		消費者被害と消費者の 権利・責任					
7							
8							
9		契約と消費生活 悪徳商法など VTR					
10		ロールプレイ					
11	経済生活を営む	消費生活と安全					
	職業生活を設計する	調べ学習、発表等					
12	計画的に使う						
	国民経済・国際経済 と家庭の経済生活						
1	現代の消費社会	消費者の自由な選択					
	消費者の権利と責任						
	消費生活と環境						
2							
3							
備考							

(家庭 (情報分野)) 科 (科目)		普通 ・ 家政 科	(1 ・ 2 ・ 3) 年次
科目名 (時間割上)		(備考 配当時間・履修形態など)	
A	1年 生活産業情報	全員履修 通年2単位 (T・T)	
B	2年 課題研究	選択履修 前期、後期 2単位	
C	3年 マルチメディア実習	選択履修 通年2単位 (T・T)	
教材	A : 生活産業情報 (実教出版) 問題集 : 日本語ワープロ検定 B : 問題集 : 日本語ワープロ検定 C : 生活産業情報 (実教出版) 問題集 : 日本語ワープロ検定		
指導到達目標と指導の工夫	A : タイピングソフトを使って、キーに慣れ、速度と正確性の向上をはかる。 身近なものをテーマにして基本操作を理解し、プレゼンテーションを考えて作品作成をする。 ワープロ検定 (練習) では、毎回添削をする。情報化、情報モラルについて考える。 B : 上級合格を目指す。 ワープロ検定 (練習) では、毎回添削をする。 C : 個々の作品計画にそった、助言・指導をする。 ワープロ検定 (練習) では、毎回添削をする。		
課題	A : 日本語ワープロ検定合格を目指し、授業内はもちろん、放課後や家庭でもパソコンにふれ、慣れること。また、課題作成は与えられた時間内で作り提出をすること。 B : 速さと正確なタイピングの技術を習得し、さらに上級を目指して日本語ワープロ検定に望むこと。 C : さらに上級を目指して日本語ワープロ検定に望むこと。 課題作成は、こだわりをもってオリジナル作品を作ること。		
評価方法	A : 授業の取り組み方・意欲、定期考査 (実技・筆記)、課題作品の提出やできばえなど B : 実習、課題の提出状況、授業中の意欲や態度 などを総合的に評価 合格をすること。 C : 授業の取り組み方・意欲 課題作品の提出やできばえなど		

年間計画 (科目ごとに年間の計画を記入)

科目	A 1年生活産業情報	B 課題研究	C 3年MM実習	
4	パスワードの入力 キー操作練習	速度・文書練習	速度・文書練習	
5	Wordの基本操作 情報化の進展 情報モラル			
6	速度・文書練習	Excelの基本操作 日本語ワープロ検定受験 [全員・各級]	日本語ワープロ検定受験 [全員・各級]	
7	第2回定期考査			
8	課題：プリント綴り			
9	速度・文書練習 Excelの基本操作	速度・文書練習	家政科展に向けて Photoshopの基本操作	
10	第3回定期考査			
11	パワーポイントの 基本操作 第4回定期考査	Excelの基本操作	日本語ワープロ検定受験 [希望者・各級]	
12	課題：プリント綴り			
1	速度・文書練習	速度・文書練習		
2	日本語ワープロ検定受験 [全員・各級] 第5回定期考査	日本語ワープロ検定受験 [全員・各級]	日本語ワープロ検定受験 [希望者・各級]	
3				
備考	社会人講師 「知的財産と著作権」			

(家庭 (その他)) 科 (科目)		(普通) ・ (家政) 科	() 年次
科目名 (時間割上)		(備考 配当時間・履修形態など)	
A	1年 生活産業基礎	全員履修 通年2単位	
B	3年 生活教養	選択履修 通年2単位	
C	3年 ライフコーディネート	選択履修 通年2単位	
D	3年 課題研究 (漢検)	選択履修 通年3単位 (半期で変更 後期のみ)	
教材	A 教科書：生活産業基礎 (実教出版)		
	B 最新版 楽しく学べるマナーの基本 (教育図書) 秘書検定問題集		
	C はじめてのカラーハンドブック「カラー&ライフ」(日本色研事業株式会社)		
	D 漢字検定問題集		
指導到達目標と指導の工夫	A 産業や職業について関心を持ち理解を深め、専門科目の学習への動機付けを行う。		
	B 礼儀・作法・マナーを学習し、それを実生活に生かすことができる。その学習をもとに秘書検定2・3級合格をめざす。		
	C 生活を取り巻く色に着目し、生活を豊かにコーディネートする力を養う。		
	D 受験級の合格		
課題	A		
	B		
	C		
	D		
評価方法	A 定期考査、実習、課題の提出状況、授業中の意欲や態度などを総合的に評価		
	B 定期考査、実習、課題の提出状況、授業中の意欲や態度などを総合的に評価		
	C 定期考査、実習、授業中の意欲や態度などを総合的に評価		
	D 復習テスト、授業中の意欲や態度などを総合的に評価		

年間計画 (科目ごとに年間の計画を記入)

科目	A 1年 生活産業基礎	B 3年 生活教養	C 3年 ライフコーディネート	D 3年課題研究 (漢検)
4	生活産業情報を学ぶにあたって	挨拶、姿勢、歩き方、お辞儀、洋室・和室での立ち振る舞い	色の基礎	
5	社会の変化と生活産業	言葉のコミュニケーション・敬語	配色のルール	
6	生活産業と職業	人生の祝い 慶弔のマナー①	生活の中の色使い (ファッション) カラーコーディネート実習①	
7	・食生活関連分野	贈り物のマナー	生活の中の色使い (住居)	
8	・衣生活関連分野	外部講師の授業「マナー」 お礼状の書き方	住まいを彩る作品製作実習	
9	・住生活関連分野	慶弔のマナー②		漢字検定問題集
10		訪問のマナー お茶の入れ方・飲み方 秘書検定対策	居心地の良いリビングカラー 生活の中の色使い (フード) 住まいを彩る作品製作実習	
11	・ヒューマンサービス関連分野	外部講師の授業「マナー」 洋食のマナー 和食のマナー	フラワーの基礎 フラワーアレンジメント実習① フラワーアレンジメント実習②	
12	職業生活と自己実現	中華のマナー 外部講師の授業「茶道」		漢字検定過去問
1	・商品開発			
2	プレゼンテーション		作品発表 (家政科展)	漢字検定受験
3				
備考				